

「初めてのホームステイ」

扶桑中学校3年

今枝 仁美さん



▲ホストファミリーと一緒に

オーストラリアに行けることが決まった時は、不安と喜びで一杯でした。でも、ホストファミリーに会うと不安は一気に吹き飛んでしまいました。ファミリーはとても明るく優しい人達でした。

私の滞在したファミリーは、ファーザー、マザー、2歳のクリス、7歳のケイティ、8歳のサラ、10歳のサミュエル、というとても子供の多い家族でした。オーストラリアでも、子供が4人もいる家族は珍しいぞうで、2人姉妹の私にはそれだけでも貴重な体験ができたと思います。

常に誰かが傍にいました。まるでシャワーを浴びる様に英語で話しかけられました。意外と、話している内容が面白いように理解できました。

滞在中は余り天気が悪くなかったのですが、とても寒く感じました。でも、クリスが甘えて膝の上に乗って来るので、温かったです。サラとケイティも絵をいっぱい描いてくれとねだってきたので、色々描いてあげました。私は妹なので、下に弟妹がいるとこんな感じなのかなと思いました。

「Precious Memories」

扶桑中学校3年

江口 結美さん



▲ホストファザー・マザーと

出発前、ワクワクと共に大きな不安を抱えて行った、オーストラリアでしたが、現地では常に新しい事ばかりなので、とても楽しかったです。

英語が…という不安も、片言やジェスチャーだったけれど、相手もちゃんと理解してくれて嬉しかったです。また日が経つにつれ、相手の言っている内容も何となく解るようになり、不安は無くなり、楽しむことができました。

五日間という短い期間でのホームステイだったけれどホストファミリーはすごく親切でおもしろい人達だったので、コミュニケーションもとることができました。なので、お別れのときは寂しくなっていました。

たった一週間でしたが、様々な事を学ぶことができましたし、とても幸せな時間を過ごすことができました。これからは、今回学んだ事を生かしていければと思っています。また、このすばらしい思い出を大切にしていきたいと思っています。

「一番の思い出」

扶桑中学校3年

渡辺 歩未さん



▲ホストファミリーと

オーストラリアでホストファミリーと過ごしたのはたったの6日間だけだったけれど、その6日間にはたくさんの思い出が詰まっています。

ホストファミリーと初めて会ったときは、とてもドキドキしました。最初の挨拶は、本当に学校で習ったような感じで、明るくしゃべりかけてきてくれて、とてもほっとしました。

学校は授業じゃないみたいになんか楽しそうにおしゃべりをしていて、大丈夫…?と思っただけで、私も楽しかったのが最後のほうは一緒に遊んでいました。

オーストラリアの人としゃべるときは、とても頭を使いました。どうしても分からないときは聞き流してしまったので、そんなのがなくなるくらいもっともっと勉強して、またここに来たいと思いました。

私は、オーストラリアの人は日本人にはない、おらかさ、をもっていると思いました。そういう所を見て、ますますオーストラリアが好きになりました。

今までの一番思い出に残る旅でした。

「一生の宝物の」

扶桑北中学校3年

國井 梨紗さん



▲ホストファミリーと

オーストラリアへ向かう飛行機の中、私は『英語が通じるか』という大きな不安でなかなか寝付くことができませんでした。でも、いざ話をしてみると今までに習ってきた表現で結構通じるし、ボディランゲージもある上、向こうの方もゆっくりと話してくれるので、そんなに不安がる事はありませんでした。向こうの国民性は非常におおらかで社交的だったので、すぐに慣れる事もできました。タラバジェラ小学校での時間も日本では考えられない事の連続で、カルチャーショックってこういうことを言うんだ、と実感する事が多々ありまた、それについても良い経験をしたなあ、と思います。ホストファミリーと過ごした時間は、とても思い出深いものになりました。一緒に観に行った映画は全て英語で、全然わからなかったけれど分かる単語がある度に凄く嬉しいと感じました。最後の日にホストファミリーから『今度は一年間ここにおいで』と言って貰え、それがすごくうれしかったです。この一週間の貴重な経験と思いは私にとって一生の宝物です。

「もう一つの家族」

扶桑東小学校6年

土居みなみさん



▲ホストファミリーと

オーストラリアではたくさん思い出ができ、いかせてくださった人たちにとっても感謝しています。今も、たくさんさんの思い出を、いつも思い出しています。その中でも一番印象に残っているのは、顔合わせをする学校に行くバスでの事です。バスの中では、私は「いったいどんな人の家に行くんだろう。どんなことを向こうで5日間過ごすのかな。」そんな期待を胸に、色々な事を考えていました。ホームステイ先では、犬一匹と、鳥一匹と、魚と、モルモット2匹をかっていました。広い、牧場ぐらいの家にホームステイしました。家族みんな、とてもフレンドリーで友達がたくさんいてびっくりしました。家の中の食事は、朝はシリアルで、さとうなどをかけて食べていました。昼食はお弁当で、サンドイッチやジュース、果物などが入っています。夜ご飯はフライなどが多いです。家は一階建てが多いです。それに日本のふつうの家よりしきちも広い家がたくさんあります。みんなやさしくて、せいかくはおだやかです。私は、そんなオーストラリアの人に会ったことがとても心に残っています。これからもこの経験を生かしていきたいです。

「マイファーストホームステイ」

高雄小学校教諭

野田 亜希先生



▲ホストファミリーと

わたしの初めての海外生活は、日本とオーストラリアの生活習慣や考え方の違いに終始、驚かされた一週間となった。その中でも一番強く感じたのは、時間の使い方の違いである。夕方に帰ると、ホストファミリーは既に帰宅していて、デスクワークをしていた。6時から7時ごろに始まるディナーには、家族全員が揃い、団欒を楽しむ。そして翌朝に備え、9時ごろに就寝。週末は買い物に出かけたり、バーベキューをしたりと家族と共に過ごす時間が大変多いのである。だからなのかは分からないが、夫婦間、親子間の関係がとても温かく感じた。また、わたしにも本当の家族のように接していただき、おかげさまで安心して一週間、勉強に専念することができた。

今回の海外派遣は、学んできた英語を実践する絶好の機会でもあり、自国と他国の違いを肌で感じ、また大切なことは何も変わらないということを実感した、大変有意義な旅であったと思う。